

続 学校点描

素晴らしい青空の下で運動会を開催しました。中学生の姿を見てもらう絶好の機会でした。

《M中学校》

NO.4

R6. 5. 22

担当：校長

各学年の廊下には年度の始まりに生徒に書いてもらった各人の目標の文章が掲示されています。1年生は『中学生になってなりたい自分』というテーマで書いた文章です。K・Gさんは『小学校のときの僕はマンガを描いたり、応援団に入ったり、ダンスにハマったり、音楽に没頭したりなど、様々なことをしました。（略）Toby Foxさんが作った曲の中に「夢と希望」という曲があります。この曲はToby Foxさんのゲームのラスボス戦（ラスボスは3人いる）で流れる曲で世界中で人気がある曲です。僕はこの曲のように「夢と希望」に満ち溢れた中学校生活を送りたいです。』と書いてありました。

5月11日（土）にM川町総合運動公園周回コースにおいて地区中体連駅伝大会が開催され、女子中学駅伝では第8位（S・Hさん、I・Mさん、T・Mさん、O・Sさん、O・Yさん）、男子中学駅伝では、第7位（A・Kさん、O・Tさん、A・Gさん、I・Yさん、S・Dさん、S・Kさん）となりました。女子2区を走ったI・Mさんが区間2位、男子5区を走ったS・Dさんが区間2位に輝きました。

駅伝の最上中代表として走ってくれた選手と補欠の選手の「挑戦心と克己心」に脱帽します。

5月18日（土）に運動会を開催しました。今年の3年生は3学級ですので、三色での運動会となりました。青・白・紅の幹部達は、もがきながらもよく後輩達をまとめあげました。

情を紡ぐ

「友達はあるけど、親友はいないよ」いつだったか別の中学校に勤務していた際、そんなことをきっぱりいう女子生徒のB子と出会いました。実は、B子は、同じクラスのA子と部活のこともめていましたが、そのことで相談に乗っていた時に、そんなことを言うのです。

今の中学生はとっても優しいです。だからこそ、友人とぶつかって壊れることを恐れてしまいがちです。少子化は、人との本気の付き合い方を学ぶ機会を少なくしました。時にはぶつかり合って関係が断ち切れても、再び関係を紡いでいく。こんな経験を通して“ただの友達”が“親友”に変容することが10代ではよくあります。



ある日の終わりの会で、その日欠席していたA子の机の上に、1時間目から6時間目の授業で配られたプリントがどっさり上がっていました。プリントの山を整理しながらファイルに入れ、「誰かA子の家に、このファイル持って行って？」と、聞いたんです。「エー、家知らねもん」「雨だから無理」とか、そんな否定的な声が相次ぐ中、あのB子が「わたし、持って行く」と、

ファイルを受け取ってくれました。二人の関係には、まだわだかまりのある状態だったので、ちょっと心配でしたがお願いしました。

運動会までの準備の間、自分の思いが伝わらずイライラしたり、ぶつかり合うことがあります。それでも、それを乗り越えた時に本当の友情に出会えたりするものです。閉会式の中で3位になった紅組組頭がこんな話をしました。「世の中にはウクライナ戦争のように、僕達と同じ年齢の人たちが苦しんで生活している状況があります。僕達はこんな運動会ができて、本当に幸せです。紅組の皆さん、これまでついてきてくれてありがとう。」たとえ期待した結果とならなかったとしても、それ以上のもっと大きな『情』をつかみ取ったのかもしれない。

B子がプリントを持って行った翌日、A子のお母さんからメモが貼ってある

連絡帳が届きました。「昨日ファイルを届けてくださった方はどなたでしょうか。実は雨に濡れないように、ハンカチのような布で包んで、ポストに入れてくださっていて、ありがたかったです」と。B子に聞いてみると、雨の中、A子
の家に行き、鍵がかかっていたので、ポストにファイルを入れたのだそうです。ただ、ポストは、雨除けのないものだったので、

B子は、自分のハンカチでファイルを包んで入れておいたと話しました。

A子とB子の関係は修復されました。違う高校を目指していた二人は、いつも一緒に励ましあって、図書館で勉強していました。

二人の“友情”は大人になった今も続いているそうです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。